

■開会式



嬉野市長 谷口 太一郎

【概要】

今回のユニバーサルデザイン全国大会は、「優・YOU・湯～まんなかにあなただがいます。佐賀のユニバーサルデザイン～」の下、温泉観光地で初めて開催するものです。

嬉野市は、1300年前の肥前風土記に記され、江戸時代にはシーボルトも訪れたことがある「いで湯の里」ですが、本大会では、今日の嬉野から未来の嬉野へ「ひとにやさしい温泉地」としてユニバーサルデザインを提案する機会とさせていただきたいと考えています。

また、本大会では、事例発表、分科会等によりユニバーサルデザインを検証・提案していただくとともに、嬉野温泉本通りを中心に様々な関連イベントを開催しますので、嬉野市民の温かな人情にも是非触れていただきたいと期待しています。この2日間は、皆様方にとって有意義なものになるようご祈念申し上げて、地元市長のご挨拶とさせていただきます。

ユニバーサルデザイン「湯・遊うれしの」

ユニバーサルデザインの考え方を基本としたまちづくりにより「こんなまちになったらいいな」と思える夢を描いた将来の“嬉野ならでは”のビジョンです。

1 公共スペースのユニバーサルデザイン

公共スペース（公共施設、道路、文化・スポーツ施設、公園、旅館、観光施設など官民を問わないオープンスペース）のユニバーサルデザイン化により、すべてのひとが市民生活や観光を楽しむことができるまちづくりを進めます。

2 公共交通機関のユニバーサルデザイン

計画中の嬉野温泉駅やバスなどのユニバーサルデザイン化を進め、地域住民や観光客が利用しやすいようにします。

3 情報提供のユニバーサルデザイン

地域の施設の整備の状況や「みんなのトイレ」「パーキングパーミット駐車場」の場所などの情報をIT機器を利用して提供します。また、外国人に対して安心して楽しい旅になるように情報提供を行います。

4 特産品のユニバーサルデザイン化

地域の特産品などのユニバーサルデザイン化を推進します。

5 やさしさに溢れた地域づくり

市民の皆さんがユニバーサルデザインの施設や製品を利用できるようになるとともに、障害者や高齢者などを含めたすべての人が快適に社会生活をおくったり観光を楽しんだりできるように、市民すべてが相手の立場に立って思いやりの気持ちが持てるような教育・啓発事業の実施を進めていきます。

■ 基調講演「佐賀から広がるユニバーサル社会」

【概要】

嬉野市は平地の温泉地ですが、山あいの温泉地よりも平地の温泉地がより評価が得られるためには、「平地だからこそできるユニバーサルデザインのまちづくり」を提案したところ、嬉野市や嬉野温泉の関係団体のご理解をいただき、例えば、大会会場を誰もが利用できる環境に整備していただくなど、佐賀県で最もユニバーサルデザインの取り組みが進んでいます。

佐賀県では、公共施設やショッピングセンター等の身障者用駐車場の適正利用を図るため、障害のある方々等に県内共通の利用証を交付する「パーキングパーミット制度」、すべての人に安全・安心な歩道空間を提供するため、歩道と車道の2cmの段差を解消し点字ブロックを併設する「歩道段差のスロープ化」、年代や障害の有無に関わらず、介護や子育てサービス、生活支援を受けることができる「地域共生ステーション」の整備等に取り組んでおり、少しずつですが県内のユニバーサルデザイン化が進んでいます。

ユニバーサルデザインが県政運営だけでなく、社会全体で「配慮」から「前提」となっていくように期待しています。また、ユニバーサルデザインは特別な人のためだけでなく、すべての人、そして自分のためになると思います。



佐賀県知事 古川 康

■ 記念講演「ユーザーの視点で商品開発をプロデュース」

タレント 松居 一代氏

5歳の頃からの夢であった芸能人としてのデビューや、私自身や息子が病気を患った際の闘病生活など、これまで多くの障壁を自分の強い意思や機転で乗り越えて歩んできました。また、ユーザーの視点に立ち、決して妥協することなく、「圧力鍋」「松居棒」「マジカルカバー(斜めファスナー)」等の商品を開発しましたが、これからも基本を忘れずに楽しくものづくりをしていきたいと思えます。

たった一度の人生を精一杯生きていきたいと思えますし、夢を持ち続け全力でぶつかっていれば、必ず道は開かれていくことを信じております。

■事例発表－1 「歴史空間の保全と活用におけるユニバーサルデザインの推進～吉野ヶ里歴史公園での取り組み」



国土交通省吉野ヶ里歴史公園事務所
所長 井村 久行 氏

【概要】

吉野ヶ里遺跡は、我が国最大の弥生時代の遺跡であり、その時代におけるクニの中心的な集落の全貌や時代の移り変わりを知ることができます。

吉野ヶ里歴史公園は、平成13年に開園し、年間約60万人にご来園いただいております。公園のコンセプトは、吉野ヶ里遺跡の保存を通じての本物のこだわりと、適切な施設の復元や遺跡の有効活用であり、弥生時代を体感できる場を創出することです。

吉野ヶ里歴史公園では、吉野ヶ里遺跡の理解をより一層深めていただくために、ボランティアガイドによる案内、主要な場所にスタッフを配置しての案内等を行っています。また、平成21年には個人の来園者用の案内・解説手段として、個人用端末の導入の可能性を探る実験、園内の誘導を分かりやすくするための通り名の道案内について検討を行い、平成22年3月には「ひみかのみち」など3つの通り名が決定し、公園内の路面に標識を貼り、道案内を行っています。

これからも歴史的な空間を守りながら、利便性やサービスの向上に努め、吉野ヶ里歴史公園のユニバーサルデザイン化を進めていきますので、皆様のご来園を心よりお待ちしております。

■事例発表－2 「ICTが拓くユニバーサルデザイン」



マイクロソフト（株）技術統括室
マネージャー 大島 友子 氏

【概要】

マイクロソフトでは、「世界中のすべての人々とビジネスの持つ可能性を最大限に引き出すための支援をすること」というミッションがあり、全員がこのミッションを目指して活動しています。

平成21年度に初めての地域活性化協働プログラム実施自治体として佐賀県と提携し、シニアネット等を対象とした高齢者向けICT利活用促進プログラム、教職員を対象としたICTスキルアップオンラインなど5つのプログラムを実施しました。その結果、各シニアネット内において、新たな講師が養成され、以前から講師をされていた方のスキルアップが図られるとともに、ICTリーダー養成講座を受講したシニアネットが佐賀県からシニア向けパソコン講座を受託するなど高い成果を上げることができました。

マイクロソフトでは、今後も障害のある方、シニア、支援する方を含むすべての方々に向けて製品開発を行っていきたいと考えています。また、パソコンやインターネットもユニバーサルデザインのツールになりますので、皆さんもご活用いただければと思います。

■事例発表ー3「持続可能な共生社会の実現へ向けて～国際ユニヴァーサルデザイン協議会（IAUD）の活動および第3回国際ユニヴァーサルデザイン会議のご紹介～」



国際ユニヴァーサルデザイン協議会
理事長 成川 匡文 氏

【概要】

国際ユニヴァーサルデザイン協議会（以下「IAUD」）の理念は、ユニヴァーサルデザインのさらなる普及と実現を通して、社会の健全な発展に貢献するとともに、日本発のユニヴァーサルデザインを広く世界に発信することです。また、IAUDのビジョンは、一人でも多くの人々が快適で暮らしやすい社会づくりを目指すことです。

活動例として、一人ひとりの人間性の尊重、使い手中心の考え方を重視したものづくり、社会環境づくりを目的とし、ユニヴァーサルデザインに関する商品やサービス、環境づくり、余暇の過ごし方、文化の継承、教育等の暮らし全般に及んでいます。

第3回国際ユニヴァーサルデザイン会議を静岡県浜松市で開催し、延べ14,110人が参加されました。寛仁親王殿下のご臨席のもと開会式で始まり、国内外から幅広い領域の講演者を招いての公開シンポジウムやセッション、IAUDアワード表彰式、対話実践型ワークショップ48時間デザインマラソン等が行われ、最後に、会議の議論を踏まえ「大会宣言」が読み上げられ、無事に終了することができました。

<佐賀県のユニバーサルデザインの紹介・・・1>

■佐賀ユニバーサルデザイン推進指針

佐賀県では、総合的なユニバーサルデザインの推進を図るため、県内外の学識経験者等で構成する「佐賀県ユニバーサルデザイン推進委員会」を設置し、平成17年8月以来、協議・検討を重ね、パブリックコメントを実施するなど様々な意見を聴取し、平成18年3月に佐賀ユニバーサルデザイン推進指針を策定しました。

- 1 基本目標 三世代みんなが安心して暮らせるまち
- 2 基本姿勢 ①ユニバーサルデザインを目指したバリアフリーの推進、②過程の重視、③理想の追求、④自然なデザイン、⑤県民協働
- 3 分野別取組
 - 《まちづくり》 テーマ：憩える空間～面的整備・ファミリーツーリズム～
取組例：みんなのトイレの創設、歩道段差のスロープ化等
 - 《ものづくり》 テーマ：安心推奨～産業振興・意識啓発～
取組例：佐賀県ユニバーサルデザイン推奨品選定制度、同推奨品の販路拡大等
 - 《ソフトづくり》 テーマ：佐賀を楽しむ～迅速・的確・アクセシビリティ～
取組例：アクセシビリティに配慮したホームページの構築等
 - 《意識づくり》 テーマ：共に思いやる心～学校・職場・生涯学習～
取組例：佐賀県ユニバーサルデザイン大賞、出前講座の実施等